

## 天に祈る

干ばつ時には、四国各地でさまざまな形で雨乞いが行われてきました。火を焚き鉦（かね）や太鼓を鳴らし、神社にお籠もりして祝詞を奏上し雨乞い踊りを奉納するなど、現代でも水に困れば、天に降雨を願う雨乞いが行われています。香川県綾川町と愛媛県伊方町の例をご紹介します。

### ■滝宮神社・滝宮八幡宮の雨乞い祈願（香川県綾川町）

昭和14年（1939）の香川県は梅雨入りより干天続きで、藤岡長敏県知事が7月23日に滝宮天満宮で、8月1日には坂出市の城山（きやま）神社で雨乞い祈願をし、同3日に県は各市町村に雨乞いをするよう通達を出したほどでした。綾南町（現綾川町）では、7月と8月に滝宮神社と滝宮八幡宮で雨乞い念仏踊りが行われました。滝宮神社拝殿正面に掲げられている「大願成就」額は、この時滝宮国防婦人会が主催して雨乞い祈願のための般若心経が10日間に2万余千回読誦されたことを伝えるものです。人々の祈雨への思いが表されています。綾南町の水事情が改善されることになる香川用水の本格通水は、昭和50年（1975）のことです。＜参考資料：綾南町誌編纂委員会編「綾南町誌」（1998年）など＞



### ■八幡神社の千人踊り（愛媛県伊方町）

愛媛県伊方町では、昭和33年（1958）7月～8月の干ばつにより、甘藷、水稻、みかんなどの農作物被害額が5,581万円余、被害農家数は2,134戸に及びました。この時、8月1日午前5時から八幡神社で町長が祭主となり、雨乞い祈願祭が催されました。昔から千人踊りをすれば雨が降ると言われていたため、延べ4千人の町民が繰り出し、鉦や太鼓を鳴らし、「雨をたあもれ」と唱え、終日千人踊りを行いました。伊方町など南予地方は昭和42年（1967）にも干ばつに見舞われ、それを契機に野村ダムを水源とする南予用水事業が行われることになりました。＜参考資料：伊方町誌編集委員会編「伊方町誌」（1968年及び1987年）など＞

